

平成24年行政事業レビューシート (環境省)

事業名	野生生物との共生推進費	担当部局庁	自然環境局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成12年度	担当課室	野生生物課	課長 亀澤 玲治			
会計区分	一般会計	施策名	5-3 野生生物の保護管理				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律第2条	関係する計画、通知等					
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	近年、野生生物と人との軋轢等が生じている等注目されている種について、野生生物と人との共生の推進を図るため、ガイドラインや保全策を検討することを目的とする。23年度は、個体数が極端に減少しており絶滅の危機のある海棲ほ乳類であるジュゴンについて、現在の沖縄ジュゴン個体群の保全に資するため、地域住民の理解と協力を得ながら効果的な対策を検討するための調査・地域懇談会等を行った。						
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	H23年度は、主に浅海域に依存し漁業者など利用場所が重複するジュゴンについて、地域社会との共生のあり方を検討するために、地域の漁業者との連携による生息環境及び生息状況のモニタリング、利用頻度が高いと考えられる海域での海草の分布や食跡の調査、利用状況の把握等を行った。また、ジュゴンの生息に対する重大な影響要因である漁網での混獲や船舶との接触等への対策として、地域関係者へのレスキュー訓練や普及啓発等を行った。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	15	12	15	9	7
		補正予算	0	0	0	0	
		繰越し等	0	0	0	0	
		計	15	12	15	9	7
	執行額	12	5	13			
執行率(%)	80%	42%	87%				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	本事業は人と野生生物との共生の推進を図るため、対象種の生態を把握し、保全方策についてとりまとめるものであり定量的な成果目標及び成果実績を示すことは困難である。		成果実績	—	—	—	—
			達成度	%	—	—	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	対象種の生態に関する調査や地域関係者との連携促進のための取組など、様々な保全対策検討のための経費を含むことから、指標を設定することは困難である。		活動実績 (当初見込み)	—	—	—	—
				(—)	(—)	(—)	
単位当たり コスト	— (円/)		算出根拠	—			
平成 24 ・ 25 年度 予算 内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	環境保全調査費	9	7				
	計	9	7				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	特に注目度が高く個体数の極端に少ない絶滅危惧種の保全のための事業であり、地域社会との共生推進による安定した生息環境の確保を目指すことで生物多様性の保全に資する、国が自ら優先的に実施すべき事業である。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	支出先の選定については、総合評価により適切に実施している。費目・使途については、最新の現地状況・知見収集のための調査や地域の主体的な取組推進のために真に必要なものである。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	希少野生動植物の保全及び地域との共生推進のための事業であり、類似の事業はない。地域関係者との連携によるモニタリング調査実施や地域懇談会等の開催等を通じて、地域の主体的な取組に対する着実な関心の向上が見られている。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>平成23年度は、近年特に注目されている海棲ほ乳類であるジュゴンと人の共生推進のための事業として、広く地域住民がジュゴンの生態等を理解し、ジュゴンと共生する地域づくりに対する主体的な取り組みを推進するため、モニタリング調査の協働実施や地域懇談会における意見交換等の手法を組み合わせた取組を行った。H24年度はさらに手法の改善やモニタリングの継続によるデータ取得の精度向上や充実を図り、より効果的な保全方策の検討を行う予定。</p> <p>本予算は絶滅のおそれのある希少な動植物のうち、特に農林水産業など人間活動等との接点等が強いことによる影響が大きく注目されやすい側面を有する特徴的な種について、調査・技術検討だけでなく地域住民や関係者等へのアプローチも行いながら、共生の推進という観点を重視して保全施策を検討する事業として、今後も実施するものとしている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>人件費、旅費等を見直し、事業を効率的に実施することにより、予算額を節減すべき。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	<p>支出状況を勘案し、概算要求額を減額。</p>		
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	190	平成23年行政事業レビュー	181

※平成23年度実績を記入

環境省
13百万円

生息域が地域社会の人間の活動域と重複し影響を受けることの多い海棲ほ乳類(ジュゴン)の生息環境・状況を把握し、地域との共生推進方を検討する。

【総合評価・請負】

A. (財)国立公園協会
13百万円

【内容】
地域関係者との連携によるモニタリング調査、広域的な生息環境調査、地域懇談会等の開催等

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につ
 いて記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.. (財) 国立公園協会			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	技師A等	5			
旅費	モニタリング調査、地域懇談会等	1.8			
借料及び損料	調査機器等	4			
一般管理費		2			
その他	諸謝金、印刷製本費等	0.2			
計		13	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)国立公園協会	地域関係者との連携によるモニタリング調査、広域的な生息環境調査、地域懇談会等の開催等	13	1	95
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					